

## *Campylobacter* 属の便検体における水素添加による発育促進の検討

◎田中 優奈<sup>1)</sup>、後藤 孝司<sup>1)</sup>、加藤 康子<sup>1)</sup>、森 三依<sup>1)</sup>、大橋 依子<sup>1)</sup>、森山 麻衣<sup>1)</sup>、荒川 佑子<sup>1)</sup>  
大垣市民病院<sup>1)</sup>

### 【はじめに】

*Campylobacter* 属は腸炎や敗血症、髄膜炎などを引き起こすらせん状グラム陰性桿菌である。*C. jejuni* と *C. coli* は、下痢症患者の糞便から分離されることが多い。

*Campylobacter* 属と同様に、微好気培養で発育する *Helicobacter* 属は、通常の微好気培養環境よりも水素を添加することで発育が促進されるという報告がある。そこで今回、便検体を用いて *Campylobacter* 属が水素添加によって発育が促進されるかを検討したので報告する。

### 【対象と方法】

2018 年から 2019 年 6 月までに提出された便検体を対象とした。検討に使用した培地は、CCDA 寒天培地(Ox) (関東化学)とし、培養条件は、それぞれ 35°C 微好気培養(以下水素なし)、35°C 微好気培養+水素ガス(以下水素あり)とした。培養ガス濃度の調節には、アネロパウチ・微好気、W チャック付パウチ袋(いずれも三菱ガス化学)を使用した。水素は、亜鉛粉末(富士フィルム)に硫酸(和光純薬)を加えて発生させた。培地の観察は、培養 48 時間後に行い、コロニー数およびコロニーの大きさの評価を行った。

*Campylobacter* の同定は、アピヘリコ(バイオメリュー・ジャパン)を使用した。

### 【結果】

今回の検討で使用した便検体は 8 検体で、すべて *C. jejuni* であった。水素なしで発育が認められず、水素ありで発育した検体が 1 検体あった。発育したコロニー数が、水素ありの

条件で水素なしより多くなった検体は 4 検体、同等となった検体は 4 検体であった。発育したコロニーの大きさが、水素ありの条件で水素なしより大きくなった検体は 4 検体、同等となった検体は 3 検体、小さくなった検体は 1 検体であった。

### 【考察】

水素添加により発育した菌量が増加した検体、コロニーの大きさが大きくなった検体が見られた。便検体は、様々な菌種が発育するため、水素を添加して培養することにより、*Campylobacter* 属のコロニーをわかりやすくし、見落としのリスクを低くすることができると考えられる。

### 【連絡先】

大垣市民病院 細菌検査室  
0584-81-3341(内線 1265)